

# ポラリスを仰ぐ北の大地から



## 近況報告

胆振西部医師会 会長 坪 俊輔

我が家では、4月末に15年間可愛がってきた愛犬ぎんちゃん（ミニチュアダックス）が亡くなり、その後2ヵ月も経たずに12年間一緒に暮らしたもう一匹の愛犬てつ君（ウェルシュコーギー）がぎんちゃんに引かれるように亡くなっていきました。どこに行くにもこの二匹と一緒にだった妻の落ち込みようはひどく、4歳になったばかりの孫娘が“ばあ～たん大丈夫？”と心配するほどのペットロスでした。その後ほどなく、障害を抱えたワンちゃんを保健所から引き取ってきて世話を始め、妻は元気を取り戻し私もほっとしているところです。その新入りワンちゃん・そう君（雑種）は、今では車椅子を使って外を走り回る元気で我が家の一員となっています。やっとワンちゃん騒動が落ち着いた8月に、今度は隣で暮らしている92歳になる父と90歳の母の老々介護生活がついに破綻し、父は市内の病院で、母は施設でそれぞれお世話になっています。人生の最終盤を迎えた二人の“二人で一緒に暮らしたい”という希望を叶えてあげたいのはやまやまですが、現実はなかなか難しく妻と共に日々頭を悩ませているところです。

さて医師会関係では、恒例の日胆ブロック役員懇談会が、室蘭市医師会の野尻会長にお世話をいただき10月末に室蘭市で行われました。室蘭市医師会・生田理事からスワンネットについて、苫小牧市医師会・沖会長から日高・東胆振圏域での交通アクセス、および統合型リゾート（IR）についての話題提供があり、その後懇親会が行われました。やはり過日厚労省から提示された公的病院の統廃合問題が話題の中心で、地域の実情を鑑みない一方的な提案に大きな不満が出ていたように思います。当胆振西部地区でも一病院が提示されており、関係者の皆様のご苦勞はいかほどかと思われます。なお、室蘭市の三総合病院の再編問題もまだ具体的な進展はないようで、同じ二次医療圏内の当地区としてはその成り行きが気になるところです。

最後に、胆振西部医師会もご多分にもれず若い先生方の入会がほとんどなく、会員の高齢化と会員数の減少に歯止めがかかりません。みなさん何か妙案はないものでしょうか～？

## 今年記憶に残ったこと

夕張市医師会 会長 中條 俊博

平成から令和へ新年号へ移り変わり、夏が終わり、トンボが昔よりずいぶん少なくなったがどうしてなんでだろうと思っている頃、そんな時またポラリスへの原稿依頼がきた。文才が無く筆が遅い私が何を書こうかと考えているうちに、少しずつ寒くなり、紅葉のシーズンそして北海道の厳しい冬がまたやってくる時期を迎えた。

今年は本市にとっても激動な出来事を迎えた年にもなり少し記憶に残ったことを振り返ることにした。

本年は統一地方選挙の年でもあったが、前夕張市長・鈴木直道氏が2月に北海道知事への立候補を表明した。そして色々あったが当選。この知事選挙中の3月31日、その鈴木前夕張市長が決定した石勝線夕張支線の廃線。当日はここが夕張？と思える程沢山の人が訪れてくれた。走ってる列車を見ても通勤通学時間以外は誰も乗っていないことも多かった。大雪が降ったり天候が荒れると他の路線より真っ先に運休となった。誰の目から見ても夕張支線の継続は困難と思われたが、120年にも及ぶ歴史の幕切れにはあまりにも大胆な決定であると同時に、ここに住む私たちにとってはやはり複雑な心境と淋しさが残るものである。

そのわずか半月後の4月18日には夕張炭鉱の明治時代の坑道跡からの火災。夕張石炭の歴史村に隣接したこの坑道は本市のシンボリックな観光資源であったがあまりにも大きな歴史的観光資源を失ってしまった。この火災により鎮火までの数週間、全道各地から多くの消防隊、関係者が消火活動に駆け付けていただき、このことには誠に感謝を申し上げたい。

いずれにしてもこの数ヵ月振り返るだけでも本市にとってはその節目や淋しさが残る出来事があまりにも多かったと思える。年号が変わり生活はそれ程変わらない毎日が続いてはいるが、大きく変わったのは患者数の激減は深刻さを増してきた。しかし、高齢化・過疎化が進む本市にとって、私たち医師はこれまで以上に地域住民や他の多職種と更に連携を深めていかなければならないと思う。

